

#### 第4回講演会「山口県の歴史と産業」報告

11月17日土曜日、広島市のRCC文化センターにおいて講演会を開催しました。講師の高井英夫さんは、日立製作所・笠戸工場のOBで、現役時代は長く鉄道車両の設計者及び製造技術者として活躍し、現在は技術士の資格を活かし、技術士事務所を運営するとともに、高等専門学校の講師としても活躍しています。

今回は、御自身の現役時代の業務とは無関係で、もともと関心をお持ちであった地質学の知識を土台として、現役を退いた後に調べ上げた成果を講演いただきました。その内容は、日本列島の成り立ちを太古の地殻・地質形成の視点で俯瞰するところからスタート。中～近世、力を付けた武族が跋扈し始め、そして大名として地域の殖産を図る時代。明治維新以降近代化の中での石炭・鋳業や化学工業の勃興。戦後高度成長期における瀬戸内海沿岸のコンビナートの発展、そして現代。山口の礎のひとつである産業技術の隆盛や変遷について、ひとりの技術者の視点で審かにしようとした試みであって、内容は多岐に亘り、幅広いものでした。

山の真砂土(まさど)が崩れ、所謂「暴れ川」に流入し、それが海岸を埋め立て、「沼井(ぬい)」と呼ばれる砂浜が塩田となり、時を経て製塩業が廃れた後の広大な跡地が近代の工業用地として生まれ変わった。

これが山口の産業史の骨格として捉えることができそうです。

現役時代の「本業」から離れた領域を独力で踏走してみようという高井さんのチャレンジは、私達シニア世代にとって大いに示唆に富みそして励みになるものとなりました。

フロアからは多くの質問が出て、それらのやりとりによって高井さんの発表内容はさらに興味深いものとなりました。

聴講者は13名とあまり多くはありませんでしたが、自主セミナーあるいは懇話会といった自由な雰囲気を実現し、シニア会としてひとつの理想が実現したかもしれません。

当然の如く、議論に夢中となり会場の様子の写真撮影を同好会に引き続き忘れてしまいました。終了後、広島駅ビルのビアホールへ場所を移し、講師の高井さんを囲む懇親会を催しました。

(文責：佐藤一教)



講師を囲む懇親会